

平成6年度 秋田県立横手清陵学院中学校・高等学校 第2回学校評議員会・学校関係者評価会議 記録

1 日 時 令和7年2月6日(木) 15:45～17:15

2 会 場 会議室

3 参加者 学校評議員…谷口敏広、佐々木均、小川晴資、真壁賢治 (敬称略)
P T A会長…高橋啓伸(高)、木村忍(中)
学校関係者…庫山徹、佐々木輝雄、若畑斉、門脇郁子、柴田明美、進藤洋一、長沢留美子、
神谷忠昭、佐藤寿、坪井史樹、中村邦彦、須田宏、佐々木和美

4 次 第

(1) 開会の言葉

(2) 出席者紹介

(3) 校長挨拶

今年は雪の少ない冬でありましたが、本日、横手の冬らしい日にご来校いただきありがとうございます。本日は今年度の活動へのご助言、また来年度へ向けてのご助言よろしくお願いいたします。詳しくは各担当からご説明いたしますが、私の方からは、概略をお話します。

今年度もあと一ヶ月をきり、3年生は自宅学習期間となり登校等はしていませんが、大学受験をひかえている生徒は登校して頑張っている状況です。3年生の現在決定している進路状況は就職27名、公務員12名、その他大学専門学校等の進学あわせて54名になっています。

また今年度はなんといっても二十周年を記念する年であり、各御来賓を迎えての式典、戦場カメラマンの渡部陽一さんによる記念講演、記念誌の発行、横手高校との招待試合、本校グラウンドでの二十周年を記念した人文字の撮影、また二十周年を冠したロボット大会等を開催するなど、様々な行事を実施することができました。生徒もこの記念すべき年に活躍してくれ、全国児童木工工作コンクールにおいて農林水産大臣賞の受賞、無線部の全日本A R D F競技大会での個人優勝、野球部は第4シードとして挑んだ甲子園予選は惜しくも敗れてしまいましたが、3回戦での奪三振記録によって藤井さんが高野連より表彰されています。

高校の入試についてですが、明日の新聞に倍率が掲載されますが、普通科55名の募集に対し37名の出願、総合技術科は58名の出願に41名の出願で、全体では0.69倍という倍率となり、昨年度の倍率0.65倍よりも若干増えています。今年度、地域の中3生が18人増という状況があります。中学校の入試の方は26人の出願に対し、25人の合格者で、昨年度の21名よりもこちらも増加しています。少子化に伴い、県の総合整備計画第8次計画が令和8年度からスタートし、この横手平鹿地区では雄物川・平成・増田などの統合が決定し、増田高校の敷地に統合校が新設される事が明記されています。8次計画はまだ素案の段階ではありますが、残る市内3校の普通科を2校へという提案がなされており、普通科の在り方、中高一貫校の在り方など当該校として積極的に発信していきたいと考えています。

働き方改革についてですが、本校令和5年度の状況はいわゆる残業が月45時間以内が県の目標に対し達成率が秋田県全体が59%、本校が47.7%。月80時間の割合が秋田県14%に対し、本校は23.4%となっています。本校の取り組みについて方向性を定めるため、現在検討中であり、そのためICTのシステムも積極的に活用し、ペーパーレス化、保護者からの出欠連絡のWEB上での管理や、自動採点システムの利用も始まりました。その中でも最大の案件は部活動の在り方なのですが、効率的な部活動の在り方を考えつつも、部活動は本校の特色の一つであり、判断の難しいところでもあります。さまざまなご意見をいただき、参考にしながらすすめていきたいと思っております。本日はよろしくお願いいたします。

(4) 報告・提言

①進路状況について

- ・資料内容の訂正あり。大学、短大合格者について県立大の推薦合格者が抜けているので、追加して訂正。総合型選抜＋1名（総技）、推薦＋3名（システム科学技術科：普＋1 総技＋1、生物資源：普＋1）
- ・共通テストが終わり、24名が国公立大学二次試験へ向けて頑張っている。
- ・就職希望者は全員合格。今年度の特徴は公務員合格者が12名と多いこと。久しぶりに地元の横手市役所や横手地域の消防署に合格者が出た。早めの準備が功を奏した。
- ・民間就職については27名。少子化で少なくなって来ていたがとうとう30名を切った。その中で、県内就職者18名、県外9名と県内に残る生徒は増加傾向。

②研究・研修状況について

- ・職員の研修については、資料の3（1）の通り参加。
- ・3（2）－②にある通り、評価の仕方が変化し、テスト結果と様々な観点からの評価となり、苦勞している職員も多い。いかに共通理解を図っていくか、今後の課題。
- ・道徳教育についても各学年実施。
- ・残念ながら外部への研修会への参加が少なかった。A講座は参加者指定の研修であり、それ以外の研修への参加が少なく、特に近隣校への研究授業等への参加がほとんどできなかった。来年度は積極的参加を呼びかけていきたい。

③探究・国際教育について

- ・探究では別紙のとおりSDG'sの先、「Well-Being」を見据えて活動してきた。中高共に春の計画通り実施できた。ICTを使った授業も多く、活用支援を含め今後も取り組んでいきたい。
- ・高校3年生は今年度から新課程となり、探究発展が地域文化コースで開講された。地域の問題や課題の解決を目指し活動した。その活動をまとめ、AO-Naで研究発表会を実施し市民の皆さんにも見ていただく機会を得た。
- ・国際教育としては中学校では台湾修学旅行に向けて、台湾の大学生とオンライン交流会を実施。高校では、2年生で現在タイに1年間、ニュージーランドに短期留学をしている生徒が各1名ずつとなっている。

④特別活動について

- ・別紙内容は第1回評議委員会の資料に行われた大会結果を追加して記載。
- ・各部とも、少子化により部員の確保が難しい。なんとか人員をやりくりして活動している状況。
- ・校長先生からも部活動の在り方についてあったが、活動を積極的に推進していきたい立場としては身を切られるようなところ。効率的な時間の使い方とよく言われるが、量のある程度こなさないと質が確保できないのではという現場の切実な意見もある。今後よく見極めながら一部の意見のいいなりにならないよう、方向性についてまとめていきたい。

⑤生徒指導について

- ・さわやかアンケートの実施。別紙のとおり中高共に重大な事案に発展してケースはなかったが、今後も継続して見守っていく。些細な変化を敏感にキャッチし、生徒に寄り添いながら早期対応につとめていきたい。
- ・学校全体の生徒の様子としては落ち着いた学校生活を送っている。
- ・本校生徒が通学途中、人助けをしたとして警察より表彰を受けた。
- ・地域ボランティアとしてAO-Naやこども食堂の活動に参加するなど、人のために主体的に活動で

きる生徒が多くいる。このまま増えていけばと思っている。

⑥中学校入学者選抜結果等について

- ・合格者は男子12名、女子13名の25名で、昨年度より4名増。横手地区23名、湯沢・美郷の各地区から1名ずつで地元横手市から多く入学者希望が出た。横手市内小学校5・6年生に本校パンフレットを配付してもらった効果がでたのではないかな。学校祭でも生徒による学校紹介ブースを開設した。
- ・7月実施の学校説明会では6年生のみならず5年生の参加も呼びかけている。2年連続で参加する生徒も出てきた。
- ・せいちゃんダイアリーの更新に力を入れて、校内の様子を見てもらい、本校の良さを発信している。
- ・本校の特徴として、兄弟で入学する生徒が多いこと。経験して、本校の良さがわかってくれたご家庭が多いということで、小学校にもそれがいえる。過去、本校に志願者がいない学校からは希望者がいないという状況。地元横手市を中心に、今後も情報発信していきたい。

《意見・質問》

＜評議員＞公務員が増えているようだが、合格者の数値をもう一度教えてほしい。

→総技、普通科の内訳は手元にないが、人数としては国家一般4名、県職4名、横手消防2名、秋田県警も合格者が出ている。

（5）協議・提言「学校評価の結果を踏まえた本校の充実と発展について」

①保護者アンケート・教職員自己評価結果概要説明（中教頭）＜資料p.別紙・28・29＞

- ・「令和6年度教職員自己評価集計結果 概要」を別紙でP28に追加。
- ・追加した上記「教職員自己評価」では、全体として評価が0.03ポイント昨年より減少したが、今年度8月の調査に比較すると4領域すべてで上昇している。
- ・保護者アンケートでは肯定的意見が中学校では昨年比6%減少したが高校は同程度。概ね本校の活動への理解が得られている。教職員自己評価と通じる点も多く、成果があったといえるのではないかな。
- ・国際教育については中高共に評価が低かった。中学校の海外修学旅行や留学、オンライン交流会等の従来の基盤をもとに、更に充実を目指す。
- ・安心安全な学校生活を送るため、問題が起きてからではなく、問題の未然防止を目指す。
- ・学校生活を更に充実させるために全職員で取り組んでいきたい。また働き方改革には保護者の理解を得て進めていく方針であり、家庭・地域との連携を強くするために積極的に発信していく。

②学校評価の結果を踏まえた協議・提言

＜評議員A＞

- ・授業を見せてもらった。黒板にめあてを明示しており、先生に心を開いて授業を受けている。
- ・電子黒板、ICTの利用状況が順調。
- ・授業を参観するとき、生徒と共に生徒の目線で見ている。生徒を引きつける創意工夫された授業で、ぼうっとしている生徒は少ない。このまま進めていってほしい。
- ・進路達成状況については6年一貫指導の成果だと思う。希望を持って本校に入学してくるので、有名な大学とか人気の学科とそういうことなく、本人の希望を叶えることが成果。力のある子が県外に出て行ってしまう傾向。地元に着定して地元で頑張るいい方向になっていくのでは。
- ・進路については専門・大学・就職と多方面で指導がたいへんだがご尽力されてこのような結果になっている。国公立大学の方も期待している。
- ・部活動の結果も学校を元気にするものの一つ。各部活動が大会上位で活躍しているのは非

常に心強い。

- ・働き方改革について、時間の制限によって生徒の希望する結果が出せないこともあるかと思うが、保護者の理解を得てやっていけばできるのではと思う。調整しながら進めてほしい。
- ・各アンケート結果の中で先生方の評価がプラス方向になったということは、いろいろと感性を働かせて活動しているということであり、生徒を見ているということだと思う。資料がカラー版で従来より見やすくなったのありがたい。
- ・保護者アンケートも全体結果としてはいい方向。難しいところだと思ったのは「わからない」が他に比べて伸びている点。P T A、道徳、ものづくりといった分野をみて何を基準に判断するのかと思った。P T A役員の活動なのか、他校との比較なのか等。焦点を絞るところたえやすいのでは。そうしないとこの「わからない」という項目が増え続けてしまうのではないかと思う。ご検討ください。
- ・生徒数が減ると職員も減ることになり、とても大変。働き方で縛りをかけられていく中でこのような成果。あまり無理して体を壊さないよう健康に留意してがんばってほしい。

<評議員B>

- ・最初に御礼したい。このように詳細な資料ご苦勞だったのでは。
- ・授業を私も拝見した。先生を信頼し、顔をあげていきいきしていた。
- ・二十周年式典、すばらしい機会をいただきありがとうございました。改めて本校の歴史を振り返ることができた。
- ・三点についてお話ししたい。

①中高一貫校の強みを生かした指導について

- ・研修主任からあったが、システムを活かしていくことに強みがある。中学校を主に指導する先生方は、「どのように高校生が専門を学び、どこに進んでいくか」、他中学校の先生よりよくわかっている。高校の先生方は、「中学校に入学してきたこの小さいこの子がこういう3年間をすごして入ってくる」という成長を見ることができる。これが非常な強み。それを更に進めてほしい。6年を見通すのは本当に大変だというのはその通りだが全くできないか。いやそうではない。こういう就職があるとわかっているればさらにこの勉強が必要とわかって指導できる。
- ・高校側にとっては、中高連携のイベントでもなければ見られない中学校の日常が見られるということが強み。マグネットを使った見やすい展示やユニバーサルデザインのクラス作りに学ぶところは多いと思う。

②第1回評議員会のテーマでもある「本校の更なる活性化に向けて～地域に愛され、魅力ある学校づくりを目指して～」にもある、地域に愛される学校になるために地域へのアピールをどうするか。

- ・たくさんのことを行っているが、それを外に発信するのは更に忙しい。その中で中学校の花いっぱい運動についての情報発信はすばらしかった。
- ・A O - N aにおいて高校3年生の研究発表もすばらしい。この企画を開拓できたので今後、続けていければいいと思う。忙しい保護者も多いと思うが、ご案内して見ていただき、更に一般の方にも見ていただける良い機会になると思う。

③働き方改革について

職員の皆さんは非常な努力をしてきたと聞いているし、そう思っている。しかし工夫すればもう少し楽になるのでは。その中でI C Tを活用した、出欠システムについて説明があったが、とてもいいと思う。出欠の電話応対の大変さは私もよく分かる。保護者にも待たれていたシステムだと思う。その浮いた時間を生徒に向かう時間として持って

もらえらと思う。

- ・熊についてですが、放課後、通学の生徒をどう守っていくか、警察と連携をとらもうが、研究してほしい。

<評議員C>

- ・質問ですが「ARDF」とは？
→（校長）アマチュア無線探索競技
- ・SUとは？
→スキルアップの略。外部からみれば説明がないとわからないかも。
- ・さわやかアンケートについて。アンケート結果でいいなと思ったのは「お金やものをたかられる」の件数が0ということ。「おどし、冷やかし」が一番ということだが、今の若い人はそうなんだと思った。今は何を言われても平気なので、若い頃は自分もこうだったかなと思った。この「冷やかし」が一番ということへの感想は「きゃねな（かわいいな）」ということ。昔はみんな若い子たちは群がってわいわい歩いていた。今は男女とも一人一人歩いているなと思っている。
- ・中学校保護者アンケートでえこひいきする先生がいるとあるが、私はされた方。小さい頃は体が弱く、よく入院したから、先生方がよく面倒をみてくれた。その当時もそのことについていろいろ言われたが、今は何を言われても平気だが。
- ・（同アンケートで）良くないと思ったのは、各先生で伝達内容が違ふということ。生徒は迷ってしまい、うまくないのでは。主・担・副で決めごとをつくっておくべきでは。
- ・大会結果をチェックしたら大信田凌生くんの名前が多い。すごいと思っていたら、うちの店にお昼を食べにきた子が、同じく名前がたくさん載っている3年伊藤那瑠さんだとわかり「有名人だね」といったら「それは大信田じゃないか」と笑って話した。一位とか二位とか順位とは別に、こんなに上位入賞者がいるのはすごい。でも字が小さくて見るのは辛い作業だった。小松さんも名前がたくさんあってすごい。

<評議員D>

- ・授業では先生方が工夫しているなと感じた。健一先生の授業は参観して楽しかった。
- ・働き方改革については時間の使い方改革。学校は20年前と変わっていないが現在の学校は一人でやりきれないシステムではないので、皆で協力してやってほしい。

<PTA>

- ・まずは日頃のご指導に対しありがとうございます。高校PTAの立場からご提案したい。
- ・中高一貫の強みで集客ができるのではないかな。
 - ①技術系・運動系部活動が6年間同じキャンパスで頑張れるというメリット。
 - ②同じメンバーで6年間鍛えられるメリット。今は小学校からの地域に根ざしたところに行きたくない生徒が多く来ているが、こういうプラスの面で集客できれば。学食ある珍しい学校であり、小学校に大々的にアピールすればいいのでは。
- ・PTAの会議で毎回議題になっているのは自転車のヘルメット着用率がワースト1位ということ。PTAでもなかなか解決できない。高校においてヘルメット着用は努力義務。ダサイと生徒は着用を嫌がる。一番いいのは大人も全員と決まればいいのだが、それは難しい。他校とも話あったが男女一人ずつでもいいのでヘルメットをかぶるモデル生をつくれば自然にふえていくのでは。ヘルメット自体も高額なので購入補助金についてPTAと学校側とで相談して進めていければと提案したい。

- ・二十周年式典すばらしかったが、横手工業高校同窓会の支援が強かった。しかし、二十周年を終えて「もう俺らいいよね」という意見が。本校の清陵になってからの同窓生はまだ30代でまだまだ若輩という年齢であり、資金的にも同窓会を支えきれない。だから部活動で結果を出せば先輩たちも奮い立って、更に支えていきたいと思ってくれるのでは、一体感が出るのではと期待している。

- <PTA>・同じ授業でもいろいろなスタイルがあった。ここまでに皆さんに全部言われてしまった感じ。
- ・PTAについてのアンケートで「わからない」が増えているという点について、他校でもPTA活動の周知について課題になっていた。紙面でPRしても参加率が少なく、生徒の人数も少なくなって、PTAの在り方、参加の仕方も今後の課題。
 - ・中高一貫の強みが、市内から多く入ったという今年度の中入試の傾向から、ある程度浸透してきたと判断できるのではないかと。今後どう進めるか。美郷、湯沢地区からも今回希望者がいたということだが、大仙地区でも興味がある子がいたが、なかなか説明会のスケジュールがわからず踏み切れなかったという話もあった。中学校の集客をしっかりとしていけばいいのでは。
 - ・働き方改革についてだが、時間内に処理できないという話だが、私も業務で残業が100時間を超えることがざらにあったが、現在12時間いかない時もある。会社とは違うところがあるとは思いますが、みてもらってありがたいが保護者の理解もあるが、進めていただければより学校に良い効果があると思う。

(6) 閉会のことば

少子化で厳しさも増しているが、今年度二十周年を迎えて更なる発展を目指しご協力を得て進めていきたい。今年度一年間ありがとうございました